



新たに鍋田支店に配属になった職員



【金融担当】黒川祐合

飛島支店より異動となりました。
この度の人事異動により初めて鍋田支店に着任することとなります。よろしくお願いたします。

【共済担当】森澤めぐみ

弥富支店より鍋田支店に配属となりました。3年ぶりの鍋田支店での勤務となります。



【共済担当】渡辺政幸

飛島支店より異動となりました。
鍋田支店には初めての異動ということで、わからないことも多いと思いますが、少しでも早く慣れて、皆様のお役に立てればと思います。宜しくお願いいたします。

【金融担当】堀田千夏

十四山支店より異動になりました。
3年ぶりに戻って参りました。また鍋田支店のお客様とお会いできるのがとても嬉しいです。皆様のお役に立てるように



【地域担当】小出貴大

南部支援センターより異動となりました。
1年振りに戻ってまいりました。地域担当として皆様のお役に立てるように頑張ります。宜しくお願い致します。

令和3年度の人事異動により鍋田支店に新たに配属になった職員、他部署へ転出・退職した職員の紹介をしました。

- ・副支店長：上田和仁、
 - ・金融：日江井雅明、加藤美千世
 - ・ライフアドバイザー(総合渉外)：八木優治、大島慎之助、後藤悠佑
- 引き続きお世話になります。宜しくお願い致します。

〈新任のごあいさつ〉

新緑の候、組合員の皆様におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、この度の人事異動によって、6名の職員が配置になりました。

私自身初めての着任になります。これから多くのことを学び、明るく元気な支店づくりを目指します。

結びとなりますが、皆様のご健康とご多幸をお祈りいたしまして新年度のごあいさつにかえさせていただきます。



支店長
寺村和政

鍋田支店だより

お世話になりました 転出職員のご紹介



加藤秀明
立田支店



山田幸子
弥富支店



村上進祐
融資部
融資課



金子知也
弥富支店



伊藤貴代
飛島支店



立松香織
十四山支店



佐藤貴也
南部営農センター



人事異動

令和3年度の人事異動によって、7名の職員が新天地に赴任いたしました。鍋田支店に在任中は、多くのお客様からお力添えをいただいた事に感謝しております。
尚、新たな部署におきましても、地域の皆様のお役に立てるように自己研鑽に励んでおりますので、



立田支店



南部営農センター



融資部



弥富支店



弥富支店



飛島支店



十四山支店



鍋田支店だより

編集後記

人は人生の中でどれだけの人と出会い、そして別れるのでしょうか？高校進学、大学進学、就職、人事異動、そして定年退職……誰もが人生の節目を迎えた際には、多くの出会いと別れを経験してきたと思います。また、日々の生活の中ではあまり意識することは無いでしょうが、生涯の中でたった一度しか顔を合せる機会が無い人は多くいるはずです。

JA職員として働いていても、「一度しかお会いする機会が無いお客様」も数多くみえると思います。

そのため、一期一会の精神である「この機会は二度と繰り返されることのない、一生に一度の出会いであるということ」を心得て、誠意を尽くす心構えが大切である」とつくづく実感いたしました。

勿論、これから何度でもお会いする機会があるお客様に対して、「もしかしたら二度と会うことが無いかも知れない」との戒めの心をもって、接客対応を行うことが「おもてなしの精神」であり、JA職員に必要な心構えだと思います。鍋田支店では、常に「一期一





Mother's day ~日頃の感謝をこめて

鍋田支店では、5月7日（金）に「母の日ギフト」として、ご来店されたお客様にカーネーションをお渡しいたしました。受け取っていただいたお客様からは、「えっ、売り物だと思っていました。本当に貰っていいですか？とっても可愛いお花ですね！」と嬉しそうな表情でお礼を言っていました。やはり、喜ばれる贈り物は「予期せぬサプライズ感」が必要なのでしょうか？昔から、贈り物は「心を贈る」と云われたものですからね。



鍋田支店だより

編集後記

「母の日」……。100年ほど前のアメリカ・ウェストヴァージニア州で、アンナ・ジャービスという女性が、亡き母を追悼するために、フィラデルフィアの教会で白いカーネーションを配ったのが始まりと云われています。ちなみに、日本で初めて母の日のイベントが行われたのは、明治末期の頃だそうです。「母の日」は、長い歴史の中でカーネーションを贈る日として定着していますが、日頃の母の苦勞をいたわり母への感謝を表す日でもあります。

花には「花言葉」と云われるように、「口にするにはためらいがある。言葉では言い表しづらい『本音』」を相手に伝えるアイテムとしても、昔から使われているようです。ちなみに、「真っ赤なバラ」は「愛情」を表し、「ヒナギク」は「純真」を表すそうです。

コロナ禍のスティ・ホーム、不要不急の外出自粛、眩いばかりにネオンが輝く繁華街は、もはやロックダウン……。最後に、ジャズの生演奏に耳を傾けながら、ドライ・マティーニの刺激的なほど越しを堪能したのはいつだったのだろうか？

「止まない雨は無いし、明けない夜は無い」。今は我慢の日々が続きますが、まん延防止には自重が必要でしょうね。長らく続く自粛生活で、少なからず病んだ心が今回のカーネーションによって癒されると幸いに存じます。



Father's DAY ~日頃の感謝を込めて~

鍋田支店では、6月18日（金）に「父の日ギフト」として、ご来店されたお客様に「薔薇（バラ）の花」をお渡しいたしました。

受け取っていただいたお客様は、照れ笑いを浮かべながらも喜んでいただいた様子でした。

綺麗な花を受け取る・・・・・・・・・・。誰もが悪い気はしないプレゼントですからね。

緑のカーテン~ゴーヤ栽培~

支店の花壇にゴーヤで「緑のカーテン」を作ることになりました。花壇に植えたゴーヤが健やかに生長し、ネットを覆い尽くすようになれば、見事に「緑のカーテン」になると思われます。

今年の猛暑は、自家製の「緑のカーテン」によって、見た目に涼やかな夏になる事を願い、毎日欠かさず水遣りをしています。

ご来店の際には、是非ともゴーヤの生長ぶりをご覧ください。

鍋田支店だよ



編集後記

「地震、雷、火事、親父・・・・」と云われるほど、かつて「父親」は怖い存在だったようです。典型例が、昭和を代表する「スポ根野球『巨人の星』」に登場する頑固オヤジ・星一徹。気に入らない事があると、食事中でもお構いなしに「ちゃぶ台」をひっくり返す。今では、考えられない光景ですね。

時は流れ、時代は移ろう。昭和世代の父親像は、家事や育児もこなす「イクメンパパ」が主流となった令和の時代には「古き良きレガシィ」なのでしょうか？

時代と共に変わるもの。いつの時代も変わらないもの。私たちJA職員は、いつまでも地域の皆様から必要であり続けたいですね・・・・



たなばた祭り～短冊に願いを込めて～

鍋田支店では、7月1日から7月7日までの1週間、「七夕」に因んでカウンターに「笹」をディスプレイしました。ディスプレイ期間中にご来店いただいたお客様には、短冊に願い事を書き入れていただき「笹」に吊るしてもらいました。お客様の中には、「短冊に願い事を書いたのは、子供の頃に通った保育園の行事以来なので、何十年振りになるのかなぁ？」と懐かしい表情を浮かべた方もみえました。

七夕といえば、「ささのは～さ～らさら」と童謡で詠われたように、「笹」を飾るというイメージをお持ちの方が多くはないでしょうか？ですが、実際には「竹」を飾る場合も多いようです。ところで、「竹」と「笹」の違いをご存知でしょうか？

竹も笹もイネ科タケ亜科に属する植物で、一般的には大型のものを「竹」、小型のものを「笹」と呼ぶそうです。植物学上の相違点としては、竹は生長するにつれて皮が剥がれ落ち、茎の部分がツルツルになります。一方、笹は生長しても枯れるまで皮が残ります。また、見た目の特徴としては、茎にある節目から出ている枝の本数が、2本のものが「竹」であり、5～6本のものが「笹」です。

竹林の中で「笹」を見つけながら散歩するのも、また趣きの違った自然との接し方ではないでしょうか？

鍋

田

支

店

だ

よ

り

編集後記

「チュウショク」と聞いて皆様は何をご想像されますか？一般的には、お昼ごはんを表す「昼食」をイメージされた方が多いのではないのでしょうか？ですが、昨今は違った意味でも「チュウショク」がブームであり、今後は日本の食生活の文化として、定着すると云われています。飲食店での「外食」と、家庭内で自炊する「内食」の中間に位置する「中食（チュウショク）」。具体的には、スーパーやデパ地下等の小売店で「既に調理された料理」を購入し、その料理を家庭内で食べる食生活を表すそうです。

女性の社会進出によって共働きの家庭が一般的となり、「仕事と家庭」を両立させるための「時短術」とも云われています。昭和世代の専業主婦の方には、馴染みの薄いと思われる「中食」ですが、これも社会構造の変化による文化の移ろいではないのでしょうか？

さて、間もなく迎える令和となり3回目のお盆。まん延防止策の実施、いまだに続く自粛生活、他県への移動制限……。今年のお盆は、実家へ帰省をせずに、自宅で過ごす方も多いのではないのでしょうか？是非とも、積極的に「中食」を取り入れて、先祖の帰りを待ってみては如何でしょうか。いつの時代も新しい取組は、やや「異色感」を伴うものですから……。



一足早く新米を食す～令和3年米の初出荷～



鍋田支店では、支店の食堂で新米を炊いておにぎりを作り、職員がお昼ご飯の主食として食しました。新米で作ったおにぎりを食べた職員は、「コンビニで売っている既製品のおにぎりとは違って、お米そのものが甘くて美味しかったです。」と喜んだ様子でした。

やはり、何事も「機械式の既製品」より「本物」の方が、質が高いようですね。

ちなみに、冷えたお米には「ダイエット効果」があるそうです。うるち米を冷やすと、難消化性でんぷん（レジスタントスターチ）が発生し、腸からの糖質や脂肪の吸収を抑える効果があり、また、ミネラルの吸収を助ける働きもあるため、効果的な栄養補給の手助けをしてくれるとの事です。



ゴーヤも順調に生長



編集後記

「日の丸弁当」……。平成生まれの方には、あまり馴染みがないと思いますが、戦後の復興期には白米はとても貴重な食材であり、多くの家庭では白米を満足に食べることが出来なかったそうです。

そんな時代には、真っ白なお米が詰まったお弁当は、ひとつのステータスだったようです。一家の大黒柱である父親のお昼のお弁当として、白米を持たせてあげたい一心で妻は家計を切り盛りする。

飽食の現代では想像がつかないでしょうが、これも先祖の歩んできた道だと思えば感慨深さも感じます。

せっかくの日本の文化である「白米」ですので、是非ともその美味しさを皆さんにも堪能していただきたいものですね。

ご案内

9月17日（金）は、「敬老の日」にちなんで来店者プレゼントを予定しています。是非とも、ご来店をお待ちしております。尚、9月30日（木）は、棚卸のため購買窓口は午後3時までの営業となりますので、ご了承ください。



祝！敬老の日。

～人生100年時代の長寿の祝い～



鍋田支店では、9月17日（金）に「敬老の日」にちなんで、ご来店いただいたお客様に「なごやん」をプレゼントいたしました。受け取っていただいたお客様は、照れ笑いを浮かべながらも嬉しそうな様子でした。

ちなみに、「敬老の日」は、1947年（昭和22年）9月15日に兵庫県多可郡野間谷村において、村長が「老人を大切に、年寄りの知恵を借りて村を良くしましょう。」という趣旨から、村主催の「敬老会」を開催したのが「敬老の日」の始まりであるとされているようです。

9月15日という日取りは、農閑期にあたり気候も良い9月中旬ということで決められ、1966年（昭和41年）に「敬老の日」として国民の祝日に制定され、2001年（平成13年）の祝日法改正（いわゆるハッピーマンデー制度）によって、現在のような9月の第3月曜日となりました。



鍋田支店だより

編集後記

「人生100年」と云われている令和の時代。数年前に話題となった老後資金は2000万円必要との試算が、「実際に100歳まで生きられる方が何割いるのか？」「老後資金は一体どれだけ必要なのか？」と様々な憶測を呼んでいるようです。しかし、現実として平均寿命は右肩上がりであり、金融保険業界では「長生きリスクに備える」をキャッチフレーズとして、投資信託や外貨建て生命保険を積極的に販売しているようです。「長寿の祝い」と長生きを手放して喜ぶのは、昭和の時代で終わってしまったようですね。

では、せっかくの長い人生を楽しむには、どうしたらいいのでしょうか？勿論、「健康」と「金融資産」は欠かせませんが、やはり気持ちの持ちようだと思います。「青春とは、人生のある時期ではなく、心の様相を表す。年を重ねただけでは人は老いない。理想を失った時に初めて老いがくる」と云われています。

さて、皆様方にとって、今は「心がときめく青春時代」でしょうか？



10月

間違い探し!

5個見つけられるでしょうか?

鍋田支店の金融カウンターに、手書きイラストの「間違い探し」を掲示しました。ご来店の際には、待ち時間に「間違い探し」に挑戦していただき、少しでも有意義な手待ち時間にしていただければ、幸いに存じます。

尚、今後も季節ごとに「間違い探し」のイラストを替える予定ですので、どうぞご期待ください。

ちなみに、「絵心」と云われるように、「絵」には描く人の心が映し出されるようですね。美しい絵を描ける人は、心の中に「美しい眼」を持っていると云われています。自分自身の目で見たものが、どのように映っているのか、絵として表現されます。やはり、歪んだ心を持っていると、美しい光景を見ても醜く映ってしまうのでしょうか。

さて、私たち鍋田支店の職員は、他の職員の「間違い探し」をすることなく、職員が一丸となってお客様をお出迎えする心構えを常に忘れていませんので、何かご相談事があればいつでもお気軽にお問い合わせください。

編集後記

瑞穂の国……。古来より日本の田には稲が植えられ、秋になるとお米として収穫されてきた。初夏の照りつける太陽によって、苗が真っ青な稲に生長し、実りの秋を迎える頃には黄金色に染まった稲穂となり、誇らしげながらも頭(こうべ)を垂れ下げる。

日本の季節は移り変わる。その風景は歌となり、絵となり、暮らしの彩りとなってきた。自然を受入れ、育まれる日本の文化……。

ちなみに「稲作」は、日本が世界に誇れる独自の文化の一つだと思います。そう考えるのは、私だけでしょうか?労働生産性の低さが故に敬遠されがちな稲作ですが、「日本の伝統文化の承継」と云った視点で稲作に取り組んでみると、また一つ人生観が変わるかも知れませんね。

鍋田支店だより

11月





Merry Christmas



鍋田支店では、お客様をお出迎えするに相応しい「支店づくり」に取り組んでおり、時節柄を織り込んだディスプレイをしています。金融カウンターには、Christmasシーズンにちなんだ「間違い探し」を展示してありますので、ご来店の際には「2つのクリスマスの違い」を発見し、童心に帰っていただければ幸いに存じます。

ところで、皆様は何歳くらいまでサンタクロースを信じていましたか？「ウチの家には煙突が無いのに、サンタさんはどうやって入るの？」と素朴な疑問を感じたのは、小学校就学前だったような気がします。「サンタクロースを信じない＝大人になった」のでしょうか？かつて、松任谷由実が歌ったように、「大人になると、恋人がサンタクロース」なのかも……………。

また、時節柄と云えば「インフルエンザ」の季節ですね。子供の頃には、注射器の針が怖く、泣きながら受けた「インフルエンザの予防接種」。(ちなみに、大人になっても、未だに注射は嫌ですが……………)今年、コロナウィルスの感染予防として、ワクチン接種を2回受けたからでしょうか、インフルエンザの予防接種が苦痛に感じませんでした。

コロナウィルス対策やインフルエンザ予防には、月並みですが、やはり「手洗い＆うがい」が効果的なようです。実際に、医療関係者が行った実験で、手洗いを一日中しなかった場合には、100個を超えるウィルスが手に付着するとの結果が発表されています。

しかし、万全の対策を施していても、予期せぬ病にかかる事もあります。そんな不測の事態に備えるのが、JAの医療共済「メディフル」です。昨今の医療体制（入院の短期化など）に適した保障ですので、是非ともお気軽にお見積りのご依頼をいただける事を、心待ちにしております。



鍋田支店だよ

編集後記

「師走(しわす)」。諸説ありますが、「師馳せ月(しはせづき)」が語源となっており、師匠である僧侶が、お経をあげるために東西を馳せる月との説が、最も有名なようです。現代のビジネス界においても、12月が1年の中で一番多忙な月と回答する方が多いようで、プライベートにおいても、お正月を迎えるための大掃除に追われて、てんやわんやの日々が……………。

そんな、飲み込まれそうな日々の中で、心と立ち止まり、余計な事は一度忘れて自分と静かに語り合う。そういう時間を持つ人が、本当に心の豊かな人なのではないでしょうか……………。

① 子アノ上紫色のハルが舞い。② 左から2人目の女の子が被る。③ 左から2人目の女の子が被る。④ 左から2人目の女の子が被る。⑤ 左から2人目の女の子が被る。⑥ 左から2人目の女の子が被る。⑦ 左から2人目の女の子が被る。⑧ 左から2人目の女の子が被る。⑨ 左から2人目の女の子が被る。⑩ 左から2人目の女の子が被る。⑪ 左から2人目の女の子が被る。⑫ 左から2人目の女の子が被る。⑬ 左から2人目の女の子が被る。⑭ 左から2人目の女の子が被る。⑮ 左から2人目の女の子が被る。⑯ 左から2人目の女の子が被る。⑰ 左から2人目の女の子が被る。⑱ 左から2人目の女の子が被る。⑲ 左から2人目の女の子が被る。⑳ 左から2人目の女の子が被る。㉑ 左から2人目の女の子が被る。㉒ 左から2人目の女の子が被る。㉓ 左から2人目の女の子が被る。㉔ 左から2人目の女の子が被る。㉕ 左から2人目の女の子が被る。㉖ 左から2人目の女の子が被る。㉗ 左から2人目の女の子が被る。㉘ 左から2人目の女の子が被る。㉙ 左から2人目の女の子が被る。㉚ 左から2人目の女の子が被る。㉛ 左から2人目の女の子が被る。㉜ 左から2人目の女の子が被る。㉝ 左から2人目の女の子が被る。㉞ 左から2人目の女の子が被る。㉟ 左から2人目の女の子が被る。㊱ 左から2人目の女の子が被る。㊲ 左から2人目の女の子が被る。㊳ 左から2人目の女の子が被る。㊴ 左から2人目の女の子が被る。㊵ 左から2人目の女の子が被る。㊶ 左から2人目の女の子が被る。㊷ 左から2人目の女の子が被る。㊸ 左から2人目の女の子が被る。㊹ 左から2人目の女の子が被る。㊺ 左から2人目の女の子が被る。㊻ 左から2人目の女の子が被る。㊼ 左から2人目の女の子が被る。㊽ 左から2人目の女の子が被る。㊾ 左から2人目の女の子が被る。㊿ 左から2人目の女の子が被る。① 子アノ上紫色のハルが舞い。② 左から2人目の女の子が被る。③ 左から2人目の女の子が被る。④ 左から2人目の女の子が被る。⑤ 左から2人目の女の子が被る。⑥ 左から2人目の女の子が被る。⑦ 左から2人目の女の子が被る。⑧ 左から2人目の女の子が被る。⑨ 左から2人目の女の子が被る。⑩ 左から2人目の女の子が被る。⑪ 左から2人目の女の子が被る。⑫ 左から2人目の女の子が被る。⑬ 左から2人目の女の子が被る。⑭ 左から2人目の女の子が被る。⑮ 左から2人目の女の子が被る。⑯ 左から2人目の女の子が被る。⑰ 左から2人目の女の子が被る。⑱ 左から2人目の女の子が被る。⑲ 左から2人目の女の子が被る。⑳ 左から2人目の女の子が被る。㉑ 左から2人目の女の子が被る。㉒ 左から2人目の女の子が被る。㉓ 左から2人目の女の子が被る。㉔ 左から2人目の女の子が被る。㉕ 左から2人目の女の子が被る。㉖ 左から2人目の女の子が被る。㉗ 左から2人目の女の子が被る。㉘ 左から2人目の女の子が被る。㉙ 左から2人目の女の子が被る。㉚ 左から2人目の女の子が被る。㉛ 左から2人目の女の子が被る。㉜ 左から2人目の女の子が被る。㉝ 左から2人目の女の子が被る。㉞ 左から2人目の女の子が被る。㉟ 左から2人目の女の子が被る。㊱ 左から2人目の女の子が被る。㊲ 左から2人目の女の子が被る。㊳ 左から2人目の女の子が被る。㊴ 左から2人目の女の子が被る。㊵ 左から2人目の女の子が被る。㊶ 左から2人目の女の子が被る。㊷ 左から2人目の女の子が被る。㊸ 左から2人目の女の子が被る。㊹ 左から2人目の女の子が被る。㊺ 左から2人目の女の子が被る。㊻ 左から2人目の女の子が被る。㊼ 左から2人目の女の子が被る。㊽ 左から2人目の女の子が被る。㊾ 左から2人目の女の子が被る。㊿ 左から2人目の女の子が被る。



節分



鍋田支店だよ



鍋田支店では、節分の日になんで、今年の恵方（三方角）である「北北西」を向きながら、職員が恵方巻を食しました。「恵方を向いて無言で丸かじり、全部を食べれば願いが叶う」と云われていますが、発祥は諸説あるようです。一般的には、江戸時代末期に大阪の船場で、「商売繁盛の祈願」として始まったとされる説が有名なようです。

縁を切ることなく、商売繁盛の運気を一気にいただく縁起物。七福神になんで、7種の具を使うのがお約束だそうです。

ちなみに、節分とは「鬼を追い払って新年を迎える『立春の前日の行事』」と云われています。二十四節気において、立春は新年の始まりであり、節分は大晦日のような日にあたるようです。鬼を追い払う行事は、「追儼（ついな・おにやらい）」という宮廷の行事が発祥であり、殿上人（てんじょうびと）と呼ばれる身分の高い貴族が、桃の弓や萱の矢を持ち、鬼に扮した家来たちを追い払う・・・というものでした。追儼は、宮廷ではだんだん廃れていきましたが、各地の寺社が形を変えて受け継ぎ、庶民にも浸透していったようです。豆をまくのは、豆は「魔を滅する＝マメ」と語呂が良いからとの説もありますが、五穀（米、麦、アワ、キビ、豆）の中では鬼退治に一番適しているとの説も有名です。また、五穀には霊力があり、蒔いた場所は清められ、聖域になるとの考えがあります。そのため、「福は内」と唱えながら室内に向かって豆を投げ、その豆を拾って食べる文化が定着したようです。



編集後記

「日曜大工」。かつては、父親が「子供のために手作りのおもちゃ！」と意気込んで、ホームセンターで道具を買い揃え、材料を買い込んで見たものの・・・・・・。再三苦戦した挙句、結局は既製品を購入する羽目に・・・・・・。昭和世代の父親なら、誰でも少なからず経験をされたのでは無いでしょうか？

利便性を追求し、高度経済成長を遂げた昭和。バブル崩壊により失われた30年間となった平成。時代の変化と共に「物は壊れたら捨てる」との消費文化が定着し、「壊れた物を直す。あるいは、手作りで物をつくる」との文化はすっかり廃れてしまったようですが、コロナ禍のステイホームの令和の時代。今までよりも、家で過ごす時間が長いので、何か手作りに挑戦しようと思うのですが・・・

ひな祭り～子供たちの健やかな成長に願いを込めて～



「モグラ叩き」。遊技台に設置されたいくつかの穴から、代わる代わる出入りするモグラの人形を、ハンマーで叩いて得点を競うアミューズメント・ゲーム。子供の頃に、誰もが一度は熱狂して遊んだゲームでしょうね。しかし、次々に頭を出すモグラを順に叩く様から、抜本的ではない対症的な対策の比喻としても用いられているようです。

JAを含めた金融機関を取り巻く現状。また、農協の自己改革の一環として、解決しなければならない数々の課題。「モグラ叩き」な対症療法では乗り越えられない事を、職員各自は重々承知しております。鍋田支店では、「自戒の念」と「懐旧」の思いを込めて、金融カウンターに「モグラ叩きの間違い探し」を展示しました。ご来店の際には、日々の忙しさからふと立ち止まり、「二つのモグラ叩きの違い」を見つけていただければ、幸いに存じます。

ちなみに、3月の風物詩と云えば、やはりひな祭りですね。ひな祭りは「桃の節句」とも呼ばれており、女の子の健やかな成長を願う行事とされています。ひな人形を飾り、雛あられや菱餅、あるいはちらし寿司やハマグリなどの料理を楽しむ節句祭りのひとつです。この「ひな人形」は、おひな様に女の子の穢け（けがれ）を移し、厄災の身代わりになってもらうと云う意味が込められているのですが、実は元々のひな祭りは「女の子のための行事」ではなかったそうです。

ひな祭りの由来は、中国から伝わった「五節句」という行事のひとつである「上巳（じょうみ）」だそうです。季節の節目を意味する「節」の頃は、昔から邪気が入りやすいとされていました。上巳には、中国では川で身を清める習慣がありましたが、日本では紙などで作った人形で自分の体を撫でて、穢れを人形の移し川に流すことで邪気払いをする行事として広がっていったそうです。



編集後記

「君の瞳に乾杯！（＝Here's looking at you）。不朽の名作と云われている映画「カサブランカ」の中で、ハンフリー・ボガードが「マムのコルドンリュージュ（＝シャンパンの銘柄）」が注がれたワイングラスを片手に、イングリッド・バーグマンに発した名台詞。実際に映画を見たことのない平成生まれの方々も、一度は耳にしたことがあるセリフではないでしょうか？

コルクを抜く瞬間の心地よい快音と緊張感。グラスに注がれると、絶え間なく浮かんで弾けて消える泡。フルーティな香りと辛口の飲み口が、忘れかけていた懐かしい記憶を蘇らせる。その名は「シャンパン」。

春は1年の中で一番出会いと別れの多い季節ですが、今年はまん延防止策によって従来のような歓送迎会は自粛モードとなると思われます。美辞麗句のオンパレードと献杯の応酬。そんな正調昭和型の「送迎会」は卒業し、お世話になった方への感謝の気持ちを込め、シャンパングラスを片手に「ソロ送別会」も令和の時代にあっていると思うのですが……

